

常任委員会(4・7・11・3月)

じんけんネット吹田 この1年

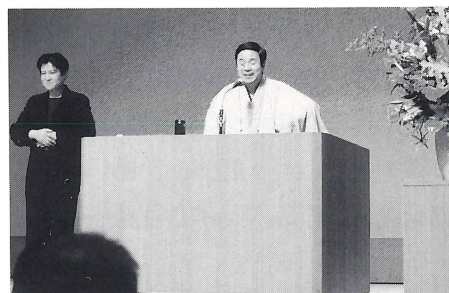


総会(5月)



憲法と市民のつどい(5月)

「手話落語と私」～手話にたずさわって変わった私の人生観～と題して、桂福団治さんが講演。お弟子さんとのバリアフリー落語も。またクリスタルフィーンの歌声もさわやかに響きました。



・地区委員会活動

今年度も、各地区委員会で、それぞれの課題に応じて、講演会やフィールドワークなど、地域の皆さんが主人公となって、いろいろ工夫していただき、のべ122回の活動がありました。(2/29現在)

・「協力企業部会」活動

(4月)「企業と人権」初級編

柳瀬 将さん

(6月)「身近な労働法規と人権」

豊村 昭則さん

(12月)「サウジアラビアの

生活と人権」

山崎ナチオさん



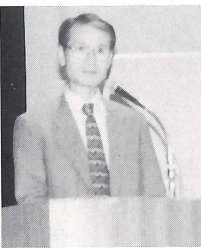
「医療と人権」



「親と子の絆と私の半生」



「介助犬と生きて」



「部落史の見直しを考える」

菊地 耕三さん 大平 光代さん 木村 佳友さん 寺木 伸明さん

地域安全・青少年育成市民大会(10月)

駅頭啓発活動(12月)

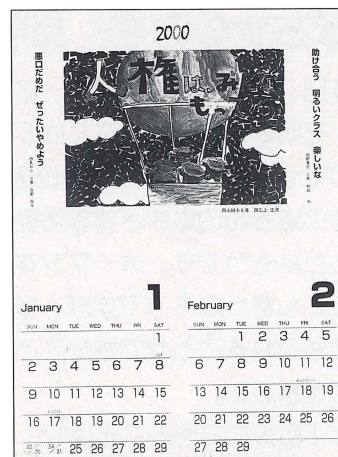


人権フェスティバル(12月)

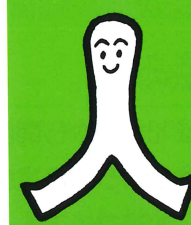
「地域から心をつなぐ人権の輪」をテーマに、メイシアターでは、「現代の生と死を考える」と題して、青木新門さんが講演。また、マリオネットのポルトガルギターとマンドリンの演奏にも心をいやされました。

発行 / 吹田市人権啓発推進協議会
☎564-0041 吹田市泉町 1-3-40
☎(06)6384-1231(代) 内線2596～8

(再生紙を使用しています)



2000年人権カレンダー作成(12月)



吹田市

人権協だより



じんけんネット吹田

No.8

平成12年(2000年)3月



企業と人権

『ぬくもりのある職場づくり』

私たち企業で働く者は、たとえ仕事が厳しくとも、職場の人間関係が明るく、ぬくもりのある、働きがいのある職場であって欲しいと願っています。

しかし、まだまだ部落差別をはじめ、女性・障害者・在日外国人の人たちへの差別があったり、職業・学歴・服装・言葉遣いなどで人の人格を判断したり、「うわさ」や「陰口」などで人の心を傷つけるようなことが少なくなく、職場の雰囲気を暗くしたり、職場の活性化を低下させたりしています。

職場の一人ひとりが大切にされる、ぬくもりのある職場は活力に満ちており、明日の企業の発展にもつながります。人権尊重の職場づくりは人間社会への貢献に直結するものと考えています。



吹田市人権啓発推進協議会
「協力企業部会」部会長

柳 瀬 将



『堺市立平和と人権資料館』見学学習会

12月1日、堺市立平和と人権資料館を見学した。

「平和」についての学習で感じたことは、今の日本は誠に平和で、これが当たり前のように思っているが、他国では絶えず戦争が起きている。ベルリンの壁崩壊後も、世界各国で、民族・宗教戦争や内戦が勃発し、多数の死傷者が出ている。平和維持に関心は離せない。

「人権」の学習では、1948年に国連で世界人権宣言が採択され、52年間も経ているのに、子どものいじめ等人権問題はまだまだ多い。特に2月には、9歳の女の子を9年間も監禁するという人権蹂躪の事件が報道された。私たち自身の問題だと反省している。

基本的人権を尊重して、いつまでも平和で住みよい明るいまちにしましょう。

(吹一地区委員会 荒田義雄)



国際交流の取組み

山手地区委員会では、平成10年度から関西大学学生課のご協力により、同大学秀麗寮の留学生の皆さんと交流のクリスマス会ともちつき大会を開催しています。今年度も12月11日の夜、秀麗寮でクリスマス会を開きました。地域から大人と子ども30名が参加し、留学生のうち男女2名がサンタの衣装をつけ、お互いに親しく会話がすすみ、交流の輪が広がり、楽しい夜を過ごしました。

翌12日の朝から公民館でもちつき大会を行いました。前夜の留学生男女13名と地域の皆さんとがいつしよになって、交互にキネを振り上げてもちをつく姿がすばらしく、和気あいあいに盛り上がりました。文化や慣習の違いなど学ぶこともでき、今後も交流の輪が広がるよう取組みを続けたいと思っています。

(山手地区委員会 板野勝彦)



出会 発見 感動



講演『現代葬式考』

“お葬式”はこれでいいの？人生最後の通過儀礼“お葬式”を扱う葬式産業は年数兆円の安定産業とか。死者を前にあわてふため遺族は知らぬ間に多くのお金をつかってしまっているんじゃないの？葬式を取りまく風習は考えなくていいの？“忌”とは何だ？“清め塩”は何を清めるの？浄土真宗本願寺派千里寺住職武田達城さんのお話は明快だ。古来わが国では死者を“穢れ”とみる。その意識のあらわれが“忌”であり“清め塩”だ。単なる因習では済まされない。その意識が部落差別を支える意識となって作用しているからだ。同寺では“清め塩”は廃止された。焼香序列や弔電の読みあげもない。読経中の遺族の立礼もない。“戒名”は？“お布施”は？武田さんのお話は続いた。

(西山田地区委員会 加藤弘道)

講演『子どもの非行は大人の避行』

11月17日、かなりショッキングな演題で、元大阪府警少年係の福田年宏氏の講演が行われました。地区推進委員、青少年指導員、千一小PTAの方々など多数参加され、豊かな社会で育った今の子ども達を取り巻くさまざまな問題点について熱心に聞き入っていました。

「子どもは別人格、決して親の所有物ではない」という言葉はよく言われていますが、その内容について具体的な事例をあげて話され、親が子どもとどう関わっていくべきかを学びました。親の姿勢、態度、考え方が子どもに与える影響が大きいこと、親が学び変わっていくことが子どもを変えるという福田氏のお話は、予定時間を超えてしまうほどでした。元警察官ということでかなり厳しいお話もあり、それぞれの心に深く残りました。

(千一地区委員会 福田誠次郎)

『かぼちゃのお家』見学学習会

12月8日、佐竹台近隣センターにある「かぼちゃのお家」を訪問しました。ここは5月にオープンし、障害児の社会参加を目的に子ども達の生活訓練やその保護者の皆さんのさまざまな活動を行う拠点としてつくられたそうです。オープンするまでは、ご苦労もたくさんあったそうですが、多くの人のあたたかい心にもふれることができたことも、お聞きすることができました。

最後に「私達にできることは？」とお聞きしたところ、施設内の喫茶店に行くこと、クッキーをかうこと、お茶会などの会場として利用することなどを含めて、ともかく「かぼちゃのお家」に来てほしいとのことでした。多くの方にお立ち寄りいただければと思いました。

(山三地区委員会 伊東利幸)

